

# 協会の活動

発行：一般社団法人栃木県老人保健施設協会広報委員会

## 令和元年度 第1回職員研修会（研修委員会主催）

- 期日：令和元年9月13日（金）
- 会場：とちぎ福祉プラザ（宇都宮市）



研修委員会による「令和元年度第1回職員研修会」が9月13日（金）に、とちぎ福祉プラザで開催され、県内各地から35施設104名の職員が参加いたしました。

開会のあいさつとして、栃老健会長と研修委員会委員長のお話がありました。矢尾板誠一会長からは、老健の今後の役割として、在宅を支え、地域を支える地域包括ケアの理念についてのお話がありました。江田多美子委員長からは、職員研修会を自己研鑽と情報共有の場としてほしいというお話がありました。

開会のあいさつの後、午前は事例発表会が、午後は意見交換会が行われました。



### 【事例発表会】

- ①少人数レクリエーションの新しい取り組み  
～各分野からのアプローチ～  
【宇都宮シルバーホーム】
- ②回想法を用いたレクによる会話の少ない入所者への効果  
【同仁苑】
- ③限りある時間を幸せに生きる  
～ご利用者とご家族に寄り添うこと～ 【和の里】
- ④転倒予防に着目した運動プログラムの確立  
～小集団体操を通じて～ 【いずみ】
- ⑤排泄支援計画を活用した在宅復帰 【あそヘルホス】
- ⑥固定チームケアのその後  
～自ら動き出すチームケア～ 【にしかた】
- ⑦スピーチロック廃止に向けての取り組み  
～言葉の拘束ゼロを目指して～ 【安純の里】
- ⑧地域包括ケアにおける老健の役割について  
【うつのみや病院付属】
- ⑨医療と介護の連携  
～リスク管理の高いご利用者様を受け入れるために～  
【お達者倶楽部】
- ⑩選ばれる通所リハビリテーションを目指して  
～業務改善の取り組み～ 【高根沢シルバーホーム】

今回の発表では、介護士、看護師、作業療法士、支援相談員、言語聴覚士など多職種の発表者による10事例であり、多角的なケアの取り組みを感じさせるものでした。また、発表内容においても、レクリエーションや看取りケア、転倒予防や拘束廃止といった従来からの課題について、さらに深めた取り組みがある一方で、平成30年の介護報酬改定を受けての排泄支援や業務改革の取り組み、地域包括ケアの中での老健施設の役割など、変化に対応した取り組みが発表されてきました。各発表後の質疑応答においても、具体的な質問に対して発表者が真摯に答える様子など、各自の施設に取り入れようとする姿勢も垣間見られました。

意見交換会では、職種やリハビリテーション、ターミナルケア、身体拘束など課題のジャンルによって5～7人のグループに分かれ、活発な意見交換が行われました。各施設における取り組みや課題について話し、熱心に意見に耳を傾ける姿が各会場で見られました。参加者からは、休憩時間も話し合うほど熱気があり、あっという間に時間が経ったなどの声が聞かれました。

